

広報

上越

じょうえつ

巻頭

鳥獣被害防止は「地域ぐるみ」で … 2

考えよう、地球温暖化のこと。… 4

新型コロナウイルス感染症関連情報 … 22～23

新型コロナウイルス感染症
に関する情報

上越市の最新情報は市ホームページ
をご覧ください。



鳥獣被害防止は「地域ぐるみ」で

■問合せ…中山間地域農業対策室 (☎025-526-5111)

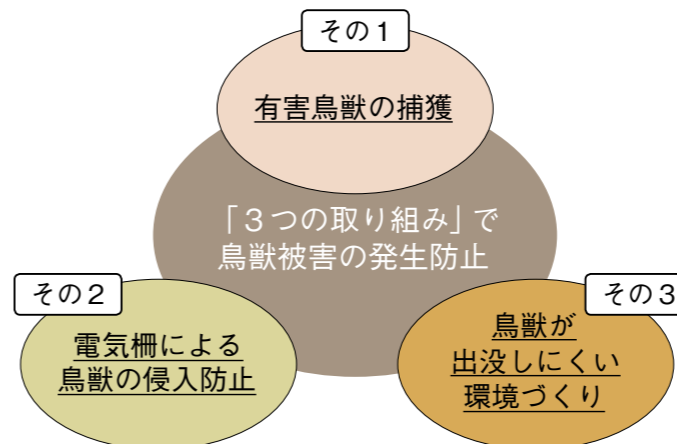
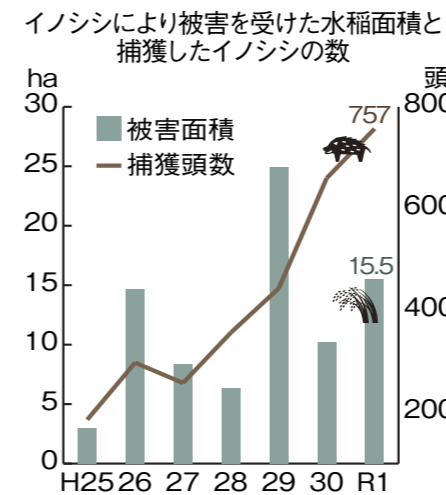
中山間地域の元気な農業づくりと農作物を有害鳥獣から守る取り組みを支援するため、令和2年度から農村振興課内に「中山間地域農業対策室」を設置しました。



「3つの取り組み」で被害を防ぐ
 イノシシやクマの被害の防止には、根本的な対策となる「捕獲を進めて生息個体数を減らすこと」が重要であることはもちろんですが、このほかに「電気柵による鳥獣の侵入防止」と、「鳥獣が出没しにくい環境づくり」を合わせた「3つの取組」を地域ぐるみで実践していくことが、被害発生防止の効果を一層高めることにつながるとされています。

捕獲頭数は増えてきているものの減らない被害面積
 市や関係機関で構成する「上越市鳥獣被害防止対策協議会」では、これまで、鳥獣被害を防止するため、イノシシなど有害鳥獣の捕獲や、水田への侵入を防止する電気柵の設置などの対策を進めてきました。
 令和元年度には、年間で過去最多

となる757頭のイノシシを捕獲し、電気柵の設置総延長は、なんと613キロメートルにも及びます。
 その一方で、15・5ヘクタールもの水稲被害が発生し、近年では住宅地周辺でもイノシシの出没が相次いでいます。人的被害の発生を防ぐためにも、これまで以上に対策を効果的に進めなくてはなりません。



住民みんなで地域を守る

吉川区 赤沢町内会長

水瀬 英俊さん

町内でも「イノシシによる農作物被害を何とかしたい」という思いは強かったのですが、電気柵の設置以外に、何にどう取り組んだらいいのか分からないという状況でした。

そんな中、昨年、猟友会の皆さんや市の協力を得て、わなを使用した捕獲の実践のほか、イノシシの生態を踏まえた有効なわなの設置方法や、イノシシが出没しにくい環境づくりなども学ぶことができました。

その結果、捕獲の成果があっただけでなく、「自分たちでも出来ることがある」という気付きが生まれ、学習した内容を実践してみるなど、住民の意識も高まってきています。

「自分たちの住む地域は自分たちで守ろう」という意識が、だんだんと広がっていきばいいですね。



できることから始めよう!

～鳥獣被害を防ぐための「3つの取組み」～

有害鳥獣の捕獲

市では、令和2年度から新たに「上越市鳥獣被害対策実施隊」を設置し、捕獲に関する専門的な技術と知識を有する「猟友会」会員から、経験豊富な74人(当初)を隊員に任命しました。

「上越市鳥獣被害対策実施隊」は、主に農作物被害が発生する夏に、農地周辺に出没して被害を引き起こすイノシシを、わなを用いて捕獲する任務に当たります。隊員が捕獲活動を進めるためには、わなの設置など地域の皆さんの協力が不可欠です。



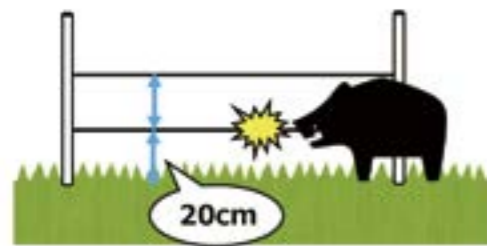
地域住民と猟友会会員が協力し合ってわなを設置 (吉川区)

電気柵による鳥獣の侵入防止

電気柵はイノシシの農地への侵入防止に効果的ですが、正しく設置しなければ十分な効果が得られません。

イノシシがぐぐり抜けられない高さに電線が張られているかなど、正しく設置されているかどうか、確認しましょう。

線の高さは20cm刻み



鳥獣が出没しにくい環境づくり

屋外に放置された野菜くずや収穫されずにいる柿などは、イノシシやクマの大好物。

これらを適切に処分することが、イノシシやクマの出没を防ぐことにつながります。



放置された野菜くず

まずは、中山間地域農業対策室または各総合事務所にご相談ください。